

今年のテーマは /

挑戦

オオスミ社員の手形を集め、
「挑」の文字を作成しました。



会議



ん...どうやって、
全員の手形を集めよう?



はっけよーい
のこった、のこった。
いや、手形を
とった、とった。

手形プロジェクトの道のり

もう少し右右...
いや左左...そこそこ
いいねえ~



貼付



私たちが目指す道 -2016-

会社にとってのチャレンジ、個人にとってのチャレンジ



株式会社オオスミ
代表取締役 大角 武志

平素より株式会社オオスミにご縁を頂き誠にありがとうございます。弊社は2015年11月で、創立から48年目を迎えました。ますます環境事業にまい進することができますことに感謝申し上げます。また、年に1度発行する本イヤーブックも第4号を迎えることができました。

さて、今号のテーマは『チャレンジ（挑戦）』であると、編集委員会から連絡がありました。会社にとってのチャレンジ、そして私個人にとってのチャレンジについて少し考えてみました。

新しい事も時間が経つと古くなる、だから次の手を打ち続ける

創立より48年間の歴史を振り返りますと、私たちオオスミは創業以来、常にチャレンジをし続けてきたのではないかと思います。

創業期の工業製品の販売、水質の検査・分析、ばい煙等の大気測定、環境アセスメント、土壌汚染調査、アスベスト対策など、時代のニーズと共に私たちの対応力・技術力を磨いてまいりました。

『ここまでやったのだからもういいや』、『これ以上することが無い』と言う事は決してなく、常にその次を考えて手を打たなければなりません。新しい事も時間が経つと古くなります。だからそこに安住せず、未来を創りださなければなりません。

私たちを取り巻く環境業界としても、様々な新たなチャレンジが始まっています。アスベスト計測における偏光顕微鏡の活用、環境計量証明書の電子発行化への取り組み等は、今後の大切な課題です。

やろうと宣言した瞬間が一番のチャレンジ

個人としても、いくつかの小さなチャレンジに取り組んでいます。2015年の春には初めてのフルマラソンを走りました（横浜マラソン）。2016年2月末には東京マラソンにもチャレンジできる事となりました。走る事なんて大嫌いだった私ですが、思い起こせば、数年前に『走ってみようかな』と思い、それを人に伝えたことがチャレンジのきっかけでした。

“チャレンジ”という言葉は、当然ですが、“やる事”に注目がいきます。マラソンにチャレンジするならマラソンしているその場・その時。国家試験を受験するなら、勉強中や試験当日。でも私は少し違った考えを持っています。やろうと宣言した瞬間が一番のチャレンジなのではないかな？と感じます。『いつかやってみよう』を、『来年やる！』、『今日からやる！』という具体的な行動予定に変えることによって、半分は成し遂げたのではないかと考えます。

ピーター・ドラッカー夫人は90歳をこえて尚、どうしたらテニスが上達するか？と真剣に悩んでいたという話を聞いたことがあります。人間は何歳になっても成長し続けるものだと考えます。『もう若くないから』とか、『運動嫌いだから』や、『勉強嫌いだし』と諦めてしまうにはもったいない。いくつになっても常に新しいことにチャレンジし続ける事が心を若く保つ秘訣ではないかなと考えます。そんな人に憧れ、また自分もそうなりたいと願っています。

環境

次世代へ環境を残すための挑戦

11年前、大角社長が海外展開を会社の方針に掲げたことが挑戦の始まりであった。社長の目標は10年後に海外業務を軌道に乗せるであった。そしてその時がやってきた。

海外への挑戦

海外に向けて新事業



◆地道な海外業務のスタート

オオスミでは海外業務が初の試みであったため、手探りの中、1人で立ち上げからスタートした。

当初は、主にJICA関連業務に携わり、平成16年度の پاکستان、シリア、エジプトの環境管理能力向上、その後、モンゴル・ウランバートル大気汚染対策強化の業務に関わった。また、平成18年度には、中国・萊陽市養豚場において、初めて、京都メカニズム（CDM）関連業務としてFS調査を行った。その後も、シリア国硝酸プラントN2O分解やアンモニアプラントのパージガス燃料利用等のCDM関連案件を発掘、業務参画を果たし、着実に業務実績を重ねていった。



セメント工場

◆そこには苦難があった

これまでに海外業務で関わった国は18か国、案件数は40に及ぶ。その間、多くの苦難があった。

例えば、シリアにおけるCDM案件では、同国が政情不安となったため、業務の継続を断念せざるを得ない状況となった。業務が軌道にのりかけた矢先のことで、海外業務の難しさを痛感した。

また、海外業務を継続的に実施していくため、業務の中で若手を育ててきたが、オオスミを離れる者もあり、海外展開のブレーキとなった。退職理由は、「公務員を対象としたJICA業務ではなく、現地の人との絆を深め合える業務がしたい」であった。国際協力関連業務は、人道的観点から非常にやりがいがある反面、個々の価値観の違いが大きくなることもあり、実業務とのギャップが生まれることがあるという難しさがあった。若手の希望をくみ取り、少しでもそれに近づける案件形成ができなかったか反省している。



火力発電所



煙道測定と省エネ指導



省エネ調査

◆苦難を乗り越えて

平成24年度JICA中小企業海外展開支援において、ベトナム国のダイオキシン等による土壌汚染の調査手法をオオスミ主体で提案した。準備周到、自画自賛する企画書を提示したが、採択には至らなかった。その理由は、「土壌汚染の範囲が特定できても、対策提案がなければインパクトが弱い」であった。その翌年も、学識者の支援も受け、横浜市との関係の深いダナン市を対象とした土壌汚染調査と簡易対策手法をセットにした企画書を検討したが、土壌汚染対策手法が未完成であったため、提案を断念せざるを得なかった。

平成25年度のダナン市への業務展開断念を横浜市共創推進室に申し述べた。この時、「簡易測定とかオオスミさんの得意な分野で提案できないか」とのご意見を頂き、簡易計測による省エネ診断で急遽企画書を準備、案件化調査にて採択の栄誉を賜った。

ダナン市をターゲットにオオスミ主体の「簡易測定法を用いた省エネ診断技術及び省エネ効果の案件化調査（平成25年度）」を実施、そして、平成27年度「簡易省エネ診断の普及・実証事業」の採択に繋がったのである。

独占インタビュー

分析工程管理システムに迫る!

今オオスミでは「分析工程管理システム」の開発を行っているようだ!!

今回、私はカギを握る「F.M」に話を聞くことが出来た!

「分析工程管理システム」と責任者の「F.M」について少し紹介しよう!

インタビュアー **むらどん**

出身地 豊洲、某レンタルショップ

マイブーム 料理、読書

むらどんは入社3年目の村尾がモデルです



Q1 分析工程管理システムとは?

A: 分析業務の計画立案から
進捗・工程管理を
一元管理するシステム

Q2 何故その挑戦(取り組み)を行おうとしたのか?

A: 分析工程の無理・無駄を減らし、
時間を有意義に使うため
(もちろん効率化も)

Q3 分析工程管理システムを活用するとどうなる?

- A:
- 1 入荷予定情報から効率的な分析計画が立案される
 - 2 立案された計画に対する進捗状況がわかる
 - 3 入荷予想から、人や装置への負荷のシミュレーションが出来る
 - 4 分析業務を見直すきっかけになる



責任者「F.M」の仲間たち



Q4 苦労したことは?

- A:
- 1 分析工程と所要時間のシステムへの落とし込み
 - 2 実作業の所要時間と分析作業工程の見直し

Q5 現段階の進捗状況は?

A: 仮運用し、
基礎データの検証中

Q7 好きな食べ物は?

A: 近江牛

Q9 お勧めの御菓子は?

A: 博多通りもん

Q6 いつ運用されるの?

A: 2015年
12月上旬

2015年12月上旬から
運用されているようだね!
乞うご期待!

Q8 ストレス解消法は?

A: 美味しいものを
食べる

Q10 趣味における挑戦は?

A: 貯金

このシステムの運用で業務の
負荷量が見える化されるようだ!
今後の活躍に期待だね!



2020年東京オリンピック・パラリンピック開催! Vol.2

情熱と冷静さ 引き続きオリンピック・パラリンピック事業に取り組みます!

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定から2年が経過しました。

「オリンピック・パラリンピック」のテーマは、従来の「スポーツ」・「文化」に「環境」が加わり、世界の人々が地球環境を考える機会となっています。日本オリンピック委員会においても、「スポーツ環境専門部会」を設置し、永続的にスポーツを楽しむ地球環境保全の啓発活動を行っています。

そんな中、オオスミも昨年に引き続き、オリンピック・パラリンピック事業にかかわっていきます。具体的には、競技場をはじめとして、交通インフラや宿泊施設といった直接的・間接的に事業に関わってくる施設建設の際に生じる環境調査が挙げられます。

また、選手が安心してスポーツに取り組むことができるよう、大会スポンサーや選手が所属する企業様などスポーツの発展に積極的に取り組まれる企業様を環境面からサポートすることで一役を担うことが出来ます。

ところで、ここ数年で陸上トラックの色がレンガ色から青色に変わっていることにお気づきでしょうか。熱的な赤色から鎮静効果のある青色にすることで、選手達の記録更新に貢献しているそうです。

我々も「情熱と冷静さ」をもって仕事に取り組み、選手が本来の力を十分に発揮し、観客がその栄光の瞬間を楽しめるよう、微力ながら環境面から「安全」と「安心」を提供していきたいと考えています。



サービス

お客さまサービス向上への挑戦

オオスミのサービスをより充実させるために、お客さまからのご要望にはお応えすべく、さまざまな企業努力を惜しみません。

分析からの報告

受託試験業務は発想と迅速さで勝負!

分析技術グループ 技師長 岩井 芳典

課題

お客様からの試験のご要望は多岐にわたります

お客様から要望される試験は、当社の本業である環境に関する調査・測定・分析に関連したものばかりではなく、製品の性能評価試験や開発研究に関連した基礎データ収集(新製品の開発に関連したものを含む)、不具合対策のための試験など多岐にわたっています。対象も水や溶媒、土壌、金属、樹脂や玩具、工業製品、微生物など種々雑多であり、定められた試験の方法や事例のないものがほとんどです。

行動

常に心がけていること

- ①お客様の目的を正しく理解すること。
- ②目的が満足できる試験の方法を提案すること。
- ③既存の試験方法があるかどうか可能な限り調べること。
- ④既存の方法がない場合には、使用する器具・器材の作成も含め、オリジナルの試験方法を考案して提案する。
- ⑤迅速に試験を実施する。
- ⑥報告書を利用する人が理解しやすい報告書を作成する。
- ⑦お客様からの要望であったとしても、意味のない試験や無駄がある場合には、“プロ”の視点から見直しを薦める。



結果

繰返しの依頼が良いサービスの証

お礼の言葉をいただくこともあるが、複数のお客様から、様々な試験をくり返し依頼していただけていることから、受託試験について評価いただけていると考えています。



東京支店長より

お客様の本当のニーズを考える

東京支店長 鈴木 典子

課題

ぶつ切り仕事ではねえ～

当社はラボで〇〇人いまして、〇〇という分析機器を保有していて、ですから△△もできますし、□□もできるんです。なんならもう少しお値引きも…などという営業を行っていたころ、とある研修にて「お客様の本当のニーズは何?」と考える場を与えられました。

ニーズを聞いて回ったところ「お客様は本当はぶつ切りの仕事を望んでいない!」ということがわかりました。

行動

一貫した仕事をする

土壌汚染調査という仕事において実際の分析の前段階のフェーズ1調査(地歴調査)から始めて、分析を行い、その結果を評価して対策提案まで行う。当時はまだめずらしかったフェーズ1調査という仕事は分析会社の仕事ではないと思われていましたが、エンジニアリングレポートを作成する会社に教えて頂きながらチームを作ってやっていました。

レポートの体裁や内容について意見をぶつけ合いながら、風が吹けばゆれるビルで毎日遅くまで頑張ってくれたフェーズ1チームのみんな、お客様の本当のニーズを実はヒアリングする前から理解していて、迷いがちな我々を叱咤激励して引っ張ってくれた元上司に感謝です。



結果

オオスミのワンストップサービス

そんな考えから始まった「〇〇から□□まで一貫した仕事をしよう」という流れは色々な場面で成長し、とある上場不動産会社担当者の方からは「不動産売買において重要な3つのテーマである土壌汚染、PCB、アスベストいずれに関しても分析だけではなくその後の評価や対策にかかる費用まで算出してもらえる、いわゆるワンストップサービスで助かっている」との評価をいただけるまでになりました。

調査現場からの報告

お客様に満足していただける対応とは

分析技術グループ 佐伯 佳美

課題

お客様の不安を解消するには?

オオスミではPCB廃棄物処理に関するコンサル的な業務を行っています。

お問い合わせ頂くお客様は、「費用がどのくらいかかるのか?」、「処理できるものなのか?」、「何をどうすればいいのか?」、「手続きは面倒くさいのか?」等、不安を抱えていらっしゃいます。



行動

できる限り即対応

お客様からお問い合わせがあり、大体の保管状況が分かった段階で、すぐに概算費用と、分かる範囲での処理スキームの概要を提示します。これにより、「大体いくらかかるのか?」が分かり、この段階では正確なスキームではなくても、少なくとも処理できる事が分かれば、保管事業者様の不安の半分程度は取り除くことができると思っています。その初期対応を大切に考えています。

軽いフットワーク

加えて、詳細な説明や、現地確認が必要な場合は、状況に応じて速やかに動くようにしています。動くことで、お客様の状況や現地の情報を得ることができ、処理スキームの組み方等、より適切な提案につながると思っています。

また、進行中の案件に関しては、「立ち入り検査で指導が入った」、「保管中のPCB廃棄物から油漏れが確認された」等の困り事が生じた場合、現地での確認も検討します。

結果

丁寧で素早い対応

PCB廃棄物処理は、非常に判りにくく、手間も費用もかかるものです。その中で、いかに満足頂けるかを考えると自分の能力を磨いていく必要があります。その方法は、一つ一つの案件をできるだけ丁寧にこなすことと、軽いフットワークで現場対応を多くこなす事に尽きると実感しています。

お客様にとって満足頂けるよう行動することが、自らの実力をつけ、その結果仕事の質が高まり、更なるお客様の喜びにつながると考え、勉強の日々を過ごしています。

業務

業務の中での挑戦

我々オオスミ社員が日頃から行っている挑戦を考えてみました。今回、3つの挑戦についてご紹介致します。

山口くんの論文発表ドキュメント

地盤工学研究発表会への参加

調査第一グループ
山口 暁



私は、今年の挑戦として去る9月1日から3日にかけて札幌で行われた地盤工学会の研究発表会において、「土壌溶出試験における振とう時間及び六価クロムの溶出量について」という研究成果の発表を行いました。

この研究は、お客様の「土壌汚染の詳細調査(深度方向の汚染範囲を調べる調査)の結果が早く知りたい」という要望により、当社で簡易分析を行ったことがきっかけではじめました。その概要は「分析用検液をいかに簡単に、早く作成出来るようにするか」というものです。

土壌の分析は、土そのものを直接分析機器にかけるのではなく、土と水を混合し、ろ過した液体(検液)を分析します。「検液」は有害物質が土壌から地下水へ溶出することを想定して作成の工程が定められており(公定法)、その作成には土壌の「風乾」や土壌と溶媒(水)による6時間の「振とう」など、長時間を要する操作があります。この研究では、「振とう時間を短くしても、グラフ等によって予測値を出すことは可能か」「溶け出すときには、地質は影響するか」、という点を検証すべく実験を行いました。

実験結果は、「土壌から六価クロムが溶出するときには、地質はあまり関連しないのではないか?」「地質に関わらず、公定法の数値を予測できそう」というものでした。「?」がつくのは、まだいろいろな条件を試す余地があるため、「本実験で行った範囲では」と但し書きが

つく結論だからです。

この研究成果をもって臨んだ発表は、十分に準備したつもりでしたが、発表会の初日かつ初回のセッションのトップバッターであったこともあり、真剣な面持ちの大勢の聴講者を前にするとかなり緊張してしまいました。質疑応答の時間にはいくつかのご質問をいただきましたが、どれも満足な回答にはならず、悔しい思いもしました。一方、参考となるご意見もいただき、またがんばろうという気持ちにもなりました。

今回の研究のニーズは、現時点では必ずしも高くはありません。しかし、技術に関する研究は、どんなテーマであれ、お客様が「こんなことができないか」という思いをお持ちの場合に「やってみましょうか」と前向きな回答と提案ができるように、準備しておくことに意味があると考えます。

今回は、さらにいろいろな地質のサンプルを集めて、どんな条件でも今回の研究で得られた結論のとおりになるのか、検証したいと考えています。また、発表等を通じて客観的なご意見をいただき、本当に使える技術にしていきたいと思っています。

余談ですが、私はこの発表会が初めての北海道でした。今回は、終始緊張を伴う旅だったので、次回は休みを取って、趣味のバイクでのんびり大自然を満喫したいと思います。

分析精度の向上(外部精度管理等)



我々オオスミは、分析精度を維持向上させるために365日挑戦し続けています。具体的には、「測定機器の適正管理」や「測定機器の校正」、「精度管理」、「技術者の教育」等の様々な取り組みを行っています。実施している精度管理は、「3つ」あります。

①内部精度管理

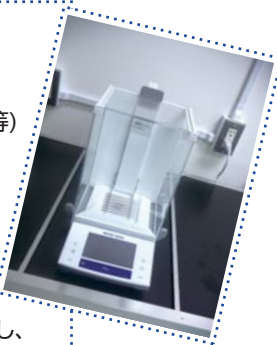
日常業務の精度を確認
(添加回収試験、ブランク試験、機器安定性試験等)

②外部精度管理

自社の精度を外部と比較評価し、
日常業務にフィードバック

③共同精度管理

信頼のできる同業他社との二社間で精度を確認し、
日常業務にフィードバック



この内、「共同精度管理」はオオスミ独自の取り組み(挑戦)です。外部精度管理では、分析結果の評価が数か月後になりますが、共同精度管理は数週間で分析結果の評価が判明します。

そのため、日常業務へのフィードバックが外部精度管理よりも迅速になること、問題点や疑問がある項目を二社間で選定できること、また注意点や改善点等を他社と共有することが可能です。これにより、分析精度を向上させることに繋がっていると考えます。

今後も、精度管理を始めとして計量証明書には見えないことでも積極的に取り組んでいきます!



0からの挑戦「福島原発・放射能除染」



福島県での放射線測定

平成23年に発生した東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故により、世間では放射能・放射線が一躍話題となり、オオスミでもこれらに関する業務依頼が多く発生しました。その中、私は除染工事のための放射線の現況測定業務に携わることとなりました。私はオオスミ社員の中では経験も長く、比較的、多種多様な業務を行っていたため、たいていの調査については、そつなくこなせることができると考えていましたが、放射線については、全く知識・経験がなく、いったい何をすればよいのか見当がつかせませんでした。

また、調査地は、福島県の某地域で、当時警戒区域(調査時には避難指示解除準備区域になりました)に指定されている場所であり、それが1か月間(しかもタコ部屋)も続くことあって、様々な不安が頭をよぎりました。しかし、このような多くの人が大変な時期に、少しでも役に立てればと思い、この仕事に挑戦しました。

調査は、対象地域内の農用地や道路、民家を対象とした放射線の測定であり、1日十数kmも延々と歩きながら測定してゆくものでした。測定作業自体はそれほど難しいものではなかったのですが、測定メンバーの業務管理や、帰宿後の測定計画の検討、時にはメンバーとの軋轢もあり、非常に大変でした。しかし、不思議と疲れはなく、とてもやりがいがある仕事でした。

調査開始から1か月後、予定通り交代メンバーにバトンタッチし、私の業務は終了しました。終了した時は、「終わった」という安堵感が大きかったのですが、「終わってしまった」という寂しさも感じていたことを覚えています。皆と過ごした1か月は私にとって非常に貴重な経験であり、私は今でもこの仕事に挑戦してよかったと思っています。

調査第一グループ 藤本 健一郎

寄稿コラム

イヤブックスに寄せて

チャレンジすることの大切さ



斎藤 日登美さん

略歴

クオリティタイム コーポレーション代表。
米国南イリノイ大学卒。ロスで就労後、帰国し、主に外資系企業で社長秘書、秘書室長等を歴任。2000年にフランスへ留学、帰国後、経営、コーチング、コミュニケーションや心理学を学びながら、再度外資系企業で社長補佐、社長室長、経営企画部長等を歴任。利益を倍増させ、部下育成とマネジメントに成果を残し、2006年末退社。2007年にエグゼクティブコーチとして独立。カウンセリングやセラピーを含む、あらゆる心理学的資格を有する。のべコーチング人数は7000人以上。個人セッションだけでなく、グループコーチングや研修はあまりに成果が出るため、クライアント企業からは「魔法使い」と呼ばれる。

クオリティタイム・コーポレーションHP <http://www.qt-corp.jp>

「脳にとって変化は幸せの原動力」と、脳科学者の茂木健一郎氏が著書の中で言っている。「変化している」と感じられない人は幸せを感じる事が難しいのだという。私は「エグゼクティブコーチ」という、マネジャー層にチャレンジを促し、マネジメント能力の向上を促す仕事をしている。

チャレンジは変化をもたらすが、チャレンジには自信が必要だから、と、「自信がついたらやる」と仰る方がいる。どれだけ準備や努力をしても不安は残る。しかし自信とは、やってみて初めて身に付くものである。昔、私のメンターが機関車の例えで教えてくれた。「勇気が原動力で、自信は客車って言うよね」機関車というのは、初めからあの長い連結された客車の列を引っ張れるわけではないのだそう。最初はエイヤと1つの客車を引っ張り、次に機関車と1つ目の客車で2つ目の客車を引っ張る。そして2つ目の客車が、今度は3両目を引っ張る原動力の一部になるのだ。まずチャレンジに必要なのは、このエイヤ、ちょっとした勇気であって、自信ではない。

人は誰も失敗を恐れる。同時に人は誰も、「成長欲求」というものも持っている。好ましい変化＝成長は欲しいが、失敗への恐れがチャレンジに二の足を踏ませる。しかし実はチャレンジ（体験）に、失敗も成功もなからう。体験をどう解釈し、何を学ぶか、だけの違いである。若き日の成功体験が長期的にみると失敗だったと嘆く人々を私は沢山知っている。つまり、変化の質はその学びの質によると私は思う。短期的な成功体験に奢らぬこと。短期的には失敗のように見える体験は、「私には不向き」で片づけず、しかと向き合えば、長期的には我々の知恵となり、心の成長、好ましい変化をもたらす。

私は昔、若くしてある外資系企業で、短期間で出世してしまっただけに業務的には能力があったほうなのだろう。しかし当時の私は経営の知識も気遣いもなく、社内でも正論だけをふりかざしていた。そんな言動が災いし、私に目をかけてくれた社長の退任時、役職者達から「斎藤もやめさせろ」コールが起こった。勿論部下や友人らは擁護してくれたが、それが私の転機になった。己の至らなさを思い知り、不足している能力を身に着けようと思った。経営はもとより、コーチング、ありとあらゆるコミュニケーション法や心理学を学び始めた。

あれから15年。コーチとして独立して丸8年が過ぎた。チャレンジは大切だ。つくづくそう思う。

日常生活こそチャレンジの場



林 由美子さん

略歴

プロコーチ・CPCC(Certified Professional Co-active Coach) システムコーチング、コミュニケーション、リーダーシップ、東洋の身体感覚技法、ヒーリングなど、心、身体、精神を高める学びを深めるとともに、自らの子育て、介護の経験などからの学びも踏まえて、人生のあらゆる側面からアプローチするセッションが特徴。「自らの内側の世界が、外側の現実の世界を創る」という信念のもと、個人セッションやセミナーなどを数多く行っている。特に、昨年よりFPとコラボして継続開催している「お金と幸せのワークショップ」「人生と幸せのワークショップ」は、毎回好評を博している。

私にとって「チャレンジ」とは、何か高いハードルを越えて新しい自分と出会うとか、全く違う自分になるために何かをする、ということではありません。むしろその反対で「本来の自分に戻るか」ということなのです。全てに喜びを感じるという自分、これが私であり、この状態になることを選んでいくのが私の「チャレンジ」です。そして、そのチャレンジは日常生活でも、よく試されます。2年前、事故で首から下が動かさなくなった父の介護をするときは、いつもチャレンジです。

大柄な父の、全ての身の周りの世話はかなり身体に堪え、それで1日が終わってしまうような時は、心身共にぐったりと疲れてしまいます。もし、私がある状況で何もチャレンジしなければ、恐らくただ疲れるだけの日常が繰り返されることでしょう。ですが、そこでチャレンジして本来の自分に立ち戻れば、違う結果を生み出すことができるのです。

私は父の身体のケアと同時に、心のケアもしたいと思っています。そして今生きている喜びを感じてもらいたいと願っています。だから私は、空いた時間をなんとなく過ごすのではなく、父の側に行き、全身のマッサージをするようにしています。手の指から足の指まで、直接皮膚に触れていくと、父の様子やその場の空気が一変するのが分かります。

マッサージをしながら、たわいもない話で笑いが起きることもあれば、父の幼少期の話になり、一度も聞いたことのない戦争の話や話を語ってくれたこともありました。予想もしない展開に驚くとともに、父の人生の話を聴くということは、私が心の奥でずっと望んでいたことなんだと気がつきました。いつしか、私の疲れはすうっと消え、不思議ですが、かえって元気を取り戻し、喜びで満たされるのです。そして、父も寝たきりの身ですが、もっと元気になりたいという意欲を口にするようになっていました。

チャレンジをすると、私は自分が好きになり、うれしくなります。それは、本来の自分の姿を感じるからかもしれません。そして、なぜか周りの状況も良い方向へと変わっているのが分かります。だからチャレンジすることをいつも私は選択していきたい、そしていつか、チャレンジをするという意識もなく、ごく自然に生きていけたらと思っています。

スキルアップ

資格取得への挑戦

オオスミの資格保有者の数は、業界平均をはるかに上回っています。今回は5人のスタッフに、挑戦した資格について聞いてみました!!

こんなことを聞いてみました!

- あなたにとって、資格を取る意義とは?
- 今までに取得するのに一番苦労した資格は何ですか? それはどんな点ですか?
- 資格を取ることにあたっての恥ずかしいエピソードまたは自慢したいエピソード
- 今後どんな資格を取得したいですか?



分析技術グループ 管 雅英

- 資格取得は目的ではなく、自己実現の手段の一つと考えています。技術的業務に携わる者として、常に学ぶことで自らを高みに上げ技術者としての幅を広げることができる、と考えています。正しい知識がなければ、的確な業務の遂行が出来ないと、思っています。
- 環境計量士(濃度)でしょうか。範囲が広いところですね。どんな試験にもいえますが、法令は、紛らわしい問題が多いですね。忘れっぽいのも原因がありますが…。
- 設問と異なりますが最近の試験中のエピソードとしては、手元にあったのは目に合わないメガネだったため、試験中だんだん目が霞んできてしまい、美しくマークシートを塗りつぶすのに苦労した事がありました。
- この業界で技術を行う者としては、さらに深みを増すためにも、取得したい資格がありますので、それを目指していきたいと考えています。

また、環境に関連するものだけでなく、業務を進めるうえで活用できるものも興味があります。

- 達成感を得る・知見を広げるために、資格に挑戦しています。
- 危険物取扱者です。試験内容に法令が入る資格は初めてだったので、覚えるのに苦労しました…。



分析技術グループ 澤田 佳織

- (自慢?)エピソード⇒試験日直前に、風邪をこじらせて気管支炎になってしまったのですが、咳に苦しめられながらも勉強&受験した結果、無事に合格した事です。諦めなくて良かったです!
- 今後は、公害防止管理者の資格を取得したいです。



- 合格できれば、自身の励みになるものと感じています。きっと、仕事や日常の振る舞いにプラスをもたらすものと思っています。
- 土壌汚染調査技術管理者です。業務上、必要に迫られていたのと、一発合格とはいかなかった点です。
- 過去には、試験の当日会場に向かいながら、「準備不足だから…」と止めてしまったことがありました。
- 業務上、取得しておくべき資格は幾つかあるのですが、その他として車輛系建設機械の運転免許です。



調査第一グループ 高橋 利之

- 業務遂行にて必要であるため。
- アスベスト診断士。アスベスト業務開始から、わずか8ヶ月で取得しようとしたため、覚えるのが大変だった。
- 特になし。
- 国交省の建築物石綿含有建材調査者資格。



調査第一グループ 小川 智志

- 自分のためです。他人から見て、信頼や実績がある感じがしますし、変わった資格なら話題にも(ツールとしても役立て)できます。初めて会う方は、その方がどのような人か判断材料がないため、やはり資格がある・なしでは、印象は変わると感じます。



分析技術グループ 金子 奈美枝

- 資格取得数は多くないので、なんとも言い難いですが、文章が苦手なので筆記・論文のある資格は苦労します。
- 恥ずかしいエピソード…意気込んで勉強していたは良いが、受験の申し込みを忘れてしまったこと。
- 民間から国家資格まで幅広く、ひとまずは「環境計量士」の取得を目指したいです。



プライベート 自己の限界への挑戦

挑戦…それはいつも儚い。一つの挑戦は一読のうちに失笑を買ってしまう運命を自ら持っている。それでも人々は挑戦を繰り返す。限りない可能性とロマンをいつも追い続ける。それが人間でありオオスミ社員なのである。
次の挑戦の記録を作るのは、あなたかも知れない。～参照「びっくり日本新記録」より～

神保町駅からオオスミ東京支店まで 最小の歩数で通勤することに チャレンジし続ける女性社員の話

Nさん
(東京支店営業アシスト)

- いっごころから**
東京支店が西新宿から神保町に引っ越してきた直後から。
- 始めたきっかけ**
以前の西新宿のオフィスだった時より駅からの距離が長くなったため、できるだけ通勤時間を短くしたかったのだ。
- 行きと帰りは歩数が増えたり減ったりしますか**
月末・月初の忙しい時は帰りの歩数が増えたりしますね。
- はじめられた時よりも、歩数の変化はありましたか**
歩数計を持っておらず、いつも計れるわけではないのですが、以前建物が建っていたところが駐車場になったので車がない時はそこを通り抜けたらして(本当は良くないですがね)、最短を極めることをいつも考えています。

何パターンかの経路をためしたか
大きく分けて**3パターン!**



- 白山通りルート 690歩**
ドラッグストア、セブンイレブンに寄りたときオオスミ! 秋の白山通りルートは銀杏並木がきれいです。
- 錦華通りルート 620歩**
とにかく最短で行きたければ錦華通りルート!
- 猿楽通りルート 720歩**
スタバやミニストップに寄りたときは靖国通り～猿楽通りルート! また、春に桜を見たいときはこのルートで行けばお茶の水小学校のところで見られます。

40からの手習い 男の料理

Yさん(本社営業)

- いっごころから**
今年6月から月一回、近くの相模女子大で料理講座(計4回)が毎年開催されるのでちょっと…。
- 始めたきっかけ**
料理って段取り力を鍛えられるじゃないですか?!あと…。



- 料理のレパートリーは増えましたか**
その講座では、同じ年代のおやじ+サポートの学生さんと分担して作るの、自宅にて一人でこなすにはちょっと厳しいです。
- 料理をはじめてみて、家族の反応はいかがでしたか**
期待値は高かったですね。結果的には一品料理で作りすぎちゃうことが多くなりました。
- 今後の抱負は**
料理で段取り力を鍛えて、定時帰社を目指します!!



山盛り完食を目指した 男たちの挑戦

「山盛り」それは昼休みに突如現れた人生の壁のようなものだ。過去の偉人達はつばやく。その壁に今日もまた「挑戦」する猛者3人がいた!! その結果は!!!



野菜マシマシ

ラーメン神豚 六浦関東学院前店 VS 本社営業Mさん

ラーメン 神豚 六浦関東学院前店
<http://ootsuya-631.co.jp/kamibuta/index.html>

一何故食べるのか そこにチャレンジする価値のある「おいしい食べ物」があるからです。

スープは、体が資本の営業マンなので、飲みたいという衝動を抑えました。

2ポンドチャック ステーキ(900g)

ステーキハウス ヒーローズ 秋葉原店 VS 東京支店営業Sさん

ステーキハウス ヒーローズ 秋葉原店
<http://tabelog.com/tokyo/A1310/A131001/1304971/>

2回戦 完食

一何故食べるのか おいしい肉も大量だと難しいですね。わたくしも十代、二十代は多く、大食いにチャレンジしてきました。そこで感じたことは大食いは戦いです。盛ってある大量の料理を様々な筋力を使って咀嚼し、飲み込み、完食するまで食べることを続けます。何故、こんなに無理しないとイケないのか。諦めたら楽になれる。そんな気持との戦いです。絶対諦めないという強い気持ちを持ち続けないと完食はできません。「この大盛りを完食することができたなら、友人、営業グループのみんなをきっと笑顔にすることが出来るだろう」という思いが、わたくしが諦めずに戦える力の源です。

1回戦 完食

富士山もり

味奈登庵 本牧店 VS 東京支店営業Nさん

味奈登庵 本牧店
<http://www.minatoan.com/menu/menu.html>

一何故食べるのか パワハラで仕方なく…いえ挑戦いたしました(>_<)

完食?? 当たり前前のクラッカー(※未完食)

3回戦 残念

3回戦 残念

OSUMI NEWS
— オオスマニュース —

オオスマ紹介動画が出来ました!

リクルートメッセージと会社サービス紹介の動画が完成しました。リクルートメッセージには、オオスマのエキスパート4名が出演しております。是非ご覧ください。



▲リクルートメッセージ

会社サービス紹介では

オオスマの概要や主なサービス内容を紹介しています。ぜひ、ご覧ください。



▲会社サービス紹介



株式会社 オオスマ
調査第一グループ 大八木 貴之

調査第一グループの大八木です。
私の所属する調査第一グループは土壌、アスベスト、放射線等の建設系に関わる環境問題の調査、測定等を手掛けています。インタビューは人生初で緊張しましたが、オオスマの多様なサービスを知っていただければ幸いです。



株式会社 オオスマ
調査第三グループ 佐上 裕俊 (海外担当)

調査第二グループで海外業務を担当している佐上といいます。
今回のビデオレターでは、オオスマが現在行っている海外業務について内容を紹介しています。オオスマの海外業務に興味あるかたはぜひ参考にしてください。



株式会社 オオスマ
分析技術グループ 金子 奈美枝

分析技術グループの金子です。
分析は「値」が重要です。自信を持ってご提出できるよう、己の力量を向上させると共に、付加価値もつけられるような提案・改善、そして行動をしていきたいと思います。



株式会社 オオスマ
営業グループ 望木 修一

営業グループの望木修一です。
お客様からの問い合わせに「分析出来るか即答できないご質問」も社内でも相談すると「出来る」という結論になることがあります。そのような問題でお困りの際にはぜひご連絡ください!

オオスマは環境のエキスパートです。

オオスマのサービス



安全・安心な環境を創り続けます
OSUMI
株式会社オオスマ

お気軽にお問い合わせください。

本社

〒246-0008
横浜市瀬谷区五貫目町20番地17
TEL: 045(924)1050(代)

東京支店

〒101-0064
千代田区猿樂町2丁目1番14号 A&Xビル5F
TEL: 03(3219)5021(代)

Yahoo!, Googleにて

オオスマ

と入力・検索してください。

編集後記 へんしゅうこうき

- オオスマ社員全員の協力のもと、今年も素敵なイヤブックスを制作することが出来ました。ありがとうございました。(編集長 K.N)
- タイトル「挑戦」を決めるまでの道程、そして「挑」を皆の手形を集めて作った表紙。なかなか素敵ではないでしょうか? 小さなことでも「挑戦」し続けることは大切ですね。(M.K)
- 自分も何か資格取得に向けて挑戦したくなりました。(N.K)

- 第4号ということもあり、前号までに蓄えられたノウハウと新たな編集委員のアイデアを活かし、硬軟織り交ぜた紙面に仕上がったと思います。(T.O)
- 素敵なイヤブックスに仕上がりましたので、たくさんの人にイヤブックスを読んでいただけると嬉しいです。(K.S)
- 日頃は意識していなかった「挑戦」ですが、探してみると日常から業務まで「挑戦」が潜んでいるものです。挑戦発見。よかった。(Y.Y)
- 今回のテーマは「挑戦」!表紙の手形による「挑」は、全員でつくるイヤブックスへの挑戦、そして、まさに手作りとなりました!(K.O)

? オオスマイルって?

o-smile は造語ですが、分解すると「o」と「smile」に分けられます。この「o」は株式会社オオスマの頭文字。「smile」は字のごとく笑顔です。Oのsmile、つまり私たちオオスマで働く人間は、常に心に笑顔を持っていたいという心からこのような名前になりました。

